Hospital Report

Boston Scientific

財団法人仙台市医療センター
仙台オープン病院 内視鏡センター

豊富な症例経験とエビデンスに基づく診療の実践が最良の医療サービスを地域に提供する

仙台市宮城野区鶴ヶ谷5丁目22番1
院長：山崎 匡　病床数：330床
年間内視鏡検査・治療件数（平成17年度）上部消化管9,253件、下部消化管6,685件、ERCP 573件、止血術273件、ESD 148件、EST 182件
スタッフ：医師 23名、看護師15名（うち内視鏡技師6名）、准看護師3名、看護助手3名、事務2名
スコープ本数：上部用14本、下部用15本、ERCP用6本、EUS用6本、気管支鏡9本、その他2本

財団法人仙台市医療センター　仙台オープン病院は、1976年に公設民営型の医師会病院として開設し、今年で30周年を迎えました。開設当時から一般外来をもたず、地域の登録医からの紹介患者に対する高次診療を提供するオープンシステムを採用し、CTやMRIなどの高度医療機器や入院病床等を周辺地域の登録医に提供しています。また、24時間体制の救急受け入れと検診事業にも力を入れており、地域の連携医療の発展に貢献していることから、1988年には全国で初めて地域医療支援病院に承認されています。

仙台オープン病院では消化器内視鏡部門に特に力を入れており、2005年春には内視鏡センターを全面新築しました。総床面積は900平方メートルを超え、内視鏡専用室9室、レントゲン併用室3室の計12室を使って診療を行っています。個々の検査室は個室化され、広いリカバリールームとともにプライバシーやアメニティーに十分配慮した環境となっています。同センターは仙台圏だけでなく広く宮城県内、東北地方の病診連携、病病連携の中心的役割を担っているため、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）やERCP（内視鏡的逆行性膵胆管造影）下の結石除去術、ステント挿入術などの治療内視鏡の件数が年々増加しています。また、胆膵疾患の質的診断や癌進展度診断を目的とするIDUS（胆管・膵管内超音波検査）、経乳頭的胆管・膵管内視鏡、生検・細胞診なども積極的に行っています。このような高度先進医療のニーズに応えるため、全ての画像情報を電子的にファイリングし、有機的に統合して診療に臨めるような環境になっています。消化器内科部長の野田裕先生は、「当センターでは消化管、肝胆膵領域の症例を偏りなくご紹介いただいており、“最小のご負担で最適の診断・治療”をモットーに診療にあたっています。」とその特色を説明されました。また、「週に一度、英文文献の抄読会を行っており、最新の情報を共有できるようディスカッションを重ねています。また、学会発表や学会誌への投稿を行うなど、積極的な学会活動により最良の診療を患者さんに還元できるように努めています。」と、臨床と研究をバランスよく実践することの重要性をお話になりました。

仙台オープン病院は各種消化器関連学会の認定施設、指導施設として認定されており、今年は第42回日本胆道学会学術集会が仙台で開催され、同院の副院長兼消化器内科主任部長の藤田直孝先生が会長を務められました。また、教育研修施設としての役割も果たしており、国内だけでなく海外からの研修希望者も多く、内視鏡センターでは初期研修医の他、全国の施設や大学からの内地留学も受け入れています。2003年より最新の治療内視鏡技術を紹介するライブセミナーを年1回開催しており、地域全体の医療水準向上に特に力を入れているそうです。

内視鏡センターのみなさん

© 2006 Boston Scientific Corporation or its affiliates. All rights reserved.